

「自然と共に生きる街」

自然が多くのこる芳賀台地区には、古く江戸時代に名主岡田八兵衛によって作られた唐桶溜池があります。鬼怒川から水を引く板戸用水を延長する導水工事を行い、用水不足に苦しんでいた農民達の窮地をすくった歴史あるため池です。現在は、農林水産省ため池100選にも選ばれており、四季折々の景色を楽しみ、冬には白鳥も飛来するため池は地域の憩いの場として親しまれています。



## 17 芳賀工業団地管理センター前



「ロマンのまち」

芳賀町は、農・工・商が発展している町です。明治期、日本絵画のロマン主義を代表する画家「青木繁」が、恋人の女流画家「福田たね」(芳賀町出身)の実家で創作活動を行なうなどのゆかりがあったことから、町内には「ロマン」の名を冠したが施設が数多く存在します。二人を記念した「ロマンの碑」をはじめ、町内のイベントなどで演奏される「芳賀町浪漫太鼓」の他、温泉施設や吊り橋、公園の名前などに名付けられています。



## 18 かしの森公園前



「あたたかき集いし郷の今昔」

かしの森公園では、さくら祭りが開催されるなど、移ろう季節の魅力や人々の営みを感じることができます。それらは 芳賀の伝統行事にも表れており、未来に継承していきたい古(いにしえ)から続く、まちの人々の慈しみを兼ねた営みとし て受け継がれています。LRTの開通により、まちの近代化と共に内外の人々にも、人のふれあいを通して、かしの森公園 や伝統行事がより愛されていくことを願います。



## 19 芳賀・高根沢工業団地



「アタラシイがはじまる!うまれる!」

芳賀町と高根沢町にまたがる芳賀・高根沢工業団地は、東京から約100kmに位置し、豊かな水と緑にあふれた 立地環境を活かし、自動車産業の大手企業とその関連企業を中心に、高度な技術を有する企業や研究所などが立地しています。栃木県の高度産業集積地域の中核工業団地としての役割を担うこの地から、未来へつながる「アタラシイ」がはじまり、うまれています。

